



補書

七冊内
第七

十九
廿一



十九々 樹竹
 亦一上 雜類
 二十 花草

終

頭書增補訓蒙圖彙卷之十九

樹竹

は部よんえ本作の
 ろんと能を



○杉しんハせん下したて
 毒どく瘴じやうとわく水みづ
 ぬいて御ご氣き短たん
 瘴じやうと能よを



○松しょうハせんとく御ごを
 是こゝハせんとく御ご
 て老らうを年ねんとら
 ぶ



○桐とうハせんハせんつ
 ろりあつた花はなを
 ひらた子ことひそ
 んを白しろ桐とうとら



○檜ひのきハせんハせんつ
 てがハせんハせんつ
 楸くふつらつら楸くは
 けらるらる圓まる楸くハせん
 ぶ



首州製一

篋の竹葉
 大かむか
 ナリ竹の
 竹葉
 竹葉

楮くわ

楮の皮の紙
 につらふし
 うそとふし
 構くわの皮の日

柴さい

柴の小木散材
 俗名

薪しん

薪しんの皮のあり
 粗と薪との細
 うそと蒸との文
 つまら

篋くわ

篋の竹の節
 ありたうひつと
 よ

籬し

籬しの皮のあり
 竹實あり一色の
 竹米との入

籬し

籬しの竹のあり
 籬の皮のあり
 あまもりと箬同

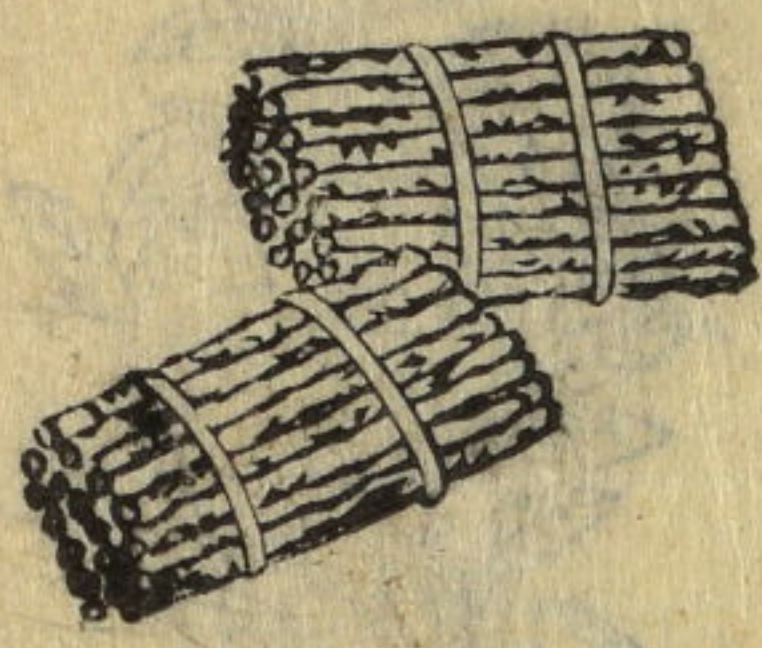
楮くわ



柴さい



薪しん



篋くわ



籬し



籬し



刺し

刺しの皮の中
 との皮の中
 刺しの皮の中
 刺しの皮の中

刺し

刺しの皮の中
 刺しの皮の中
 刺しの皮の中
 刺しの皮の中

刺し

刺しの皮の中
 刺しの皮の中
 刺しの皮の中
 刺しの皮の中

炭たん

炭たんの皮の中
 炭たんの皮の中
 炭たんの皮の中
 炭たんの皮の中

柿かき

柿かきの皮の中
 柿かきの皮の中
 柿かきの皮の中
 柿かきの皮の中

籬し

籬しの皮の中
 籬しの皮の中
 籬しの皮の中
 籬しの皮の中

刺し



刺し



刺し



炭たん



柿かき



籬し



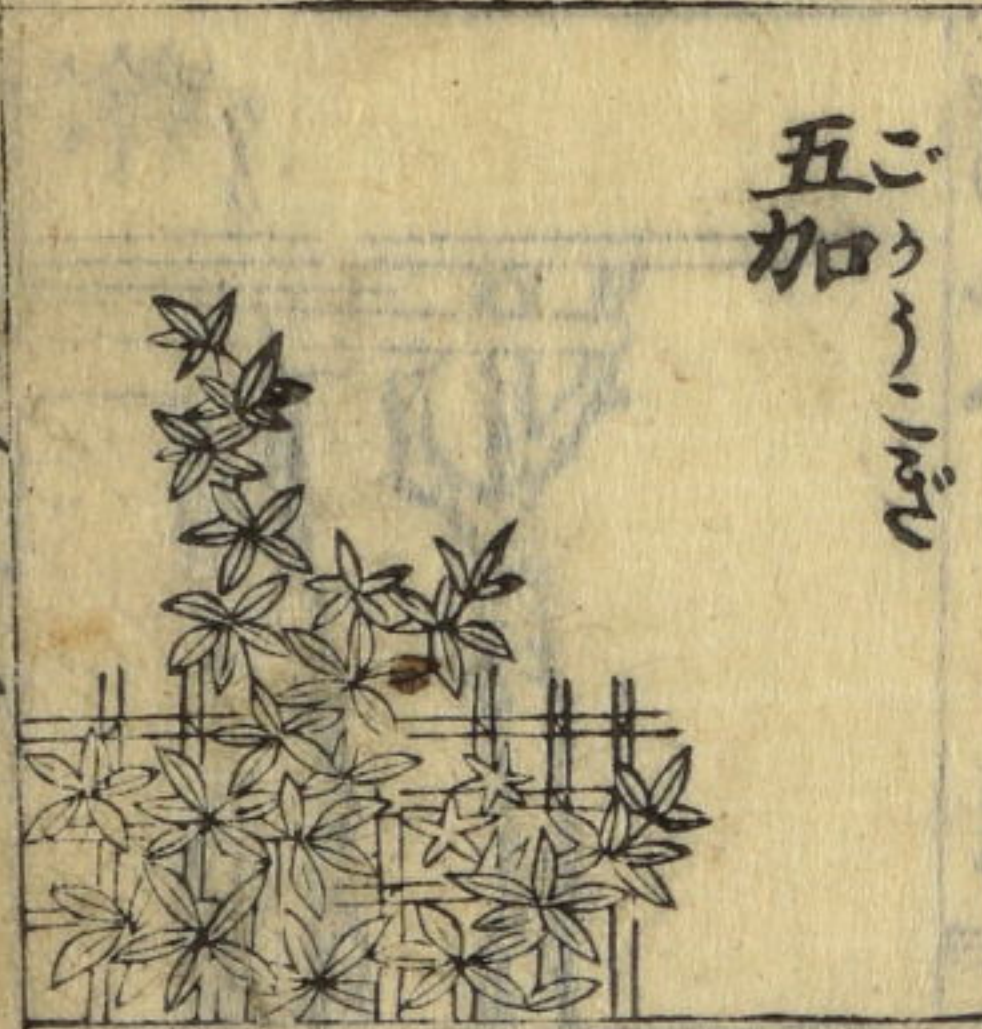
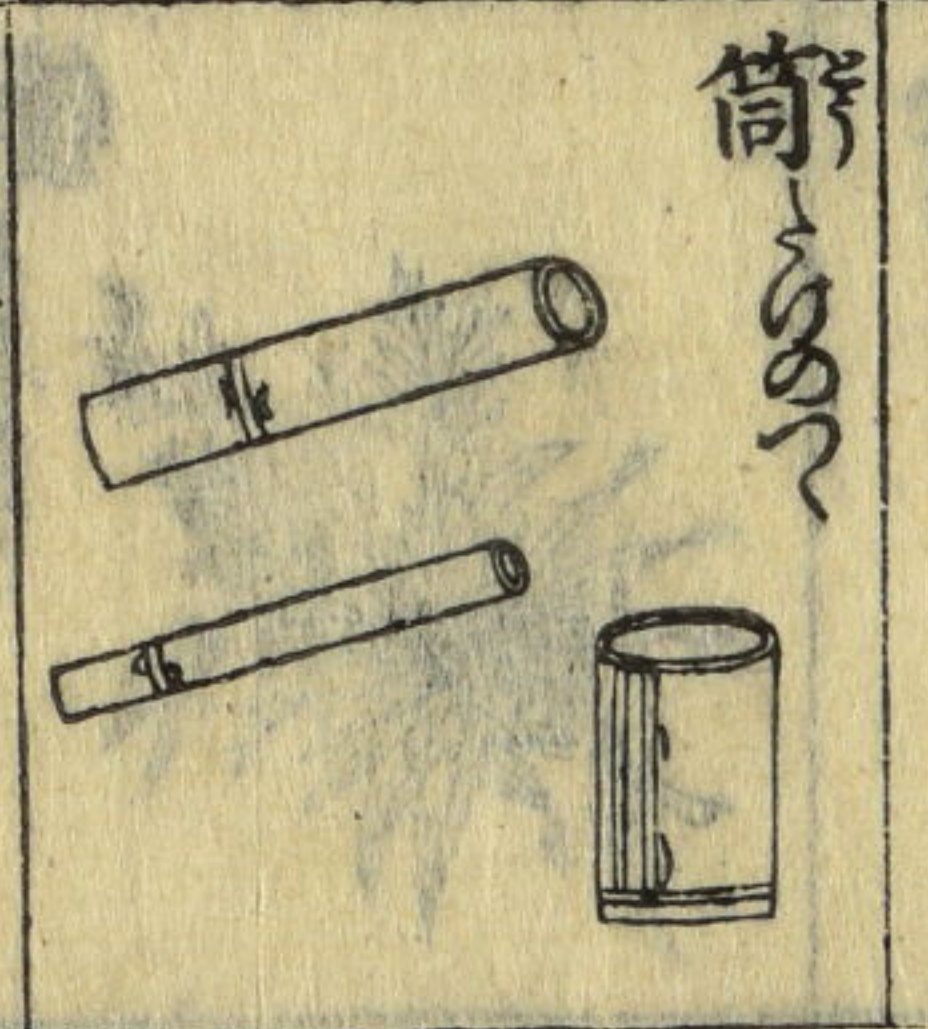
○散り草同
 腸を利し痰と
 溶し胃とささる
 け水道とつじ
 氣とます

筒すゝのつ
 筒すゝのつ
 筒同竹節と
 けのつ

芙蓉ふよう
 ○芙蓉ハ木子生
 ころと水芙蓉と
 つく荷花あり木
 け生ころと木芙
 け容ころと秋

○躑躅しゆくしゆくの交花と
 のく羊とれと
 ころと躑躅と
 死をふてふ
 見けつてふ
 枸杞こけり
 ○枸杞こけりの皮骨
 骨節の痛き
 日熱毒とさうか
 さめとれとまんず

五加ごか
 ○五加ハ蔬すのつ
 うりてころハ皮
 膚の風湿とさ
 る五加五花同



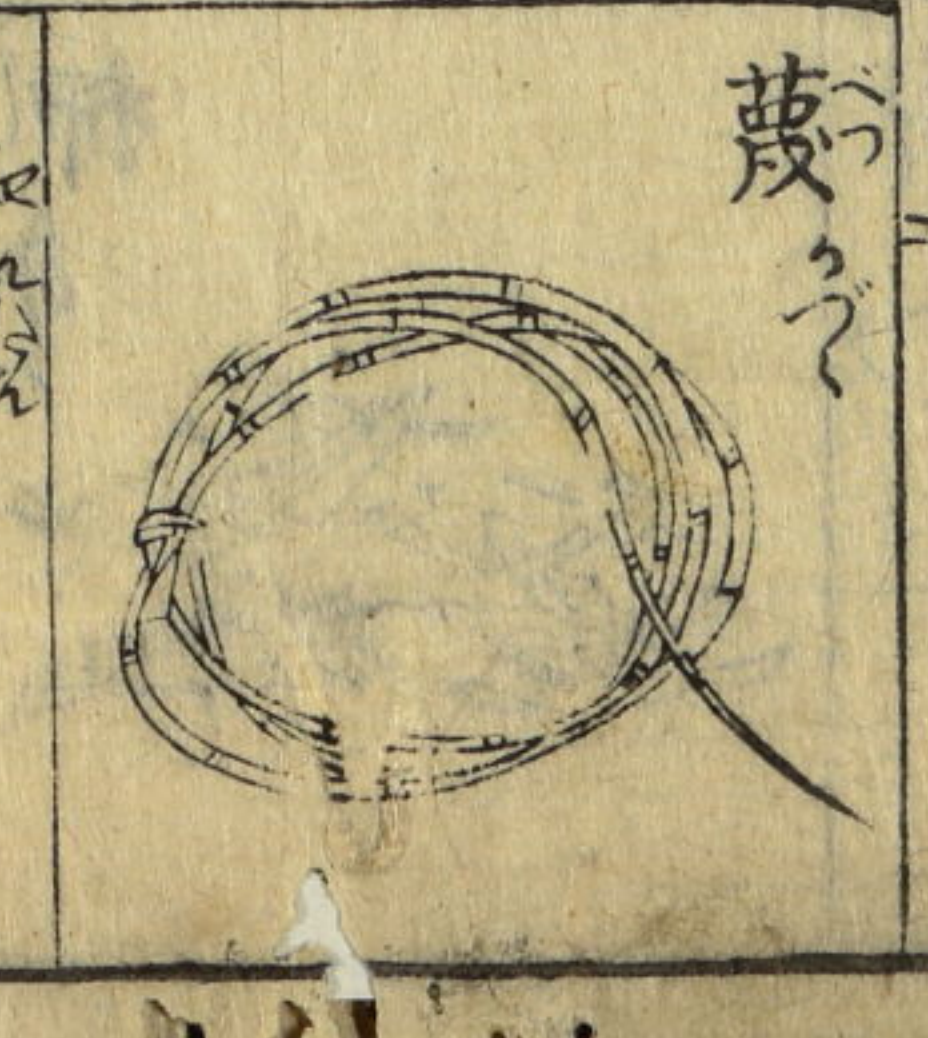
○作しやくハ六十一粒
 あり六十年に
 一とみかりる花
 ありてくれ美と
 らて又生と

蔑べつ
 蔑べつハのあさり
 の後子とつり
 蟹菊同

梅檀ばいたん
 ○梅檀ハ梨ハ
 槐けいの皮と
 後子ごし棟と色
 白紫赤の別と

○櫻桐おうとうハ六七月
 け黄白を半
 八九月に実と
 まんて房と
 魚子のと
 厚朴こうはく
 ○厚朴こうはくハ春系と
 生と四季と
 花うれあのみ
 わと一名榛

辛夷しんい
 ○辛夷しんいハ葉梯
 の葉とてせと
 あり花は白と
 ひとれあり



幹の木の心あり
くるとのふ 三キ

梢の木の心あり
あり根同

株の心あり
株のくねせあり
俗云くねせ土
八と根とのふ土
といはつと株と

粉團の花白
くしては球の
くく玉結
とと結球花云

紫陽の花の
さたふして秋花
と生を結球花云

瑞香の枝の
に葉わや
ひくも二四分
くら下香のごと
は美美白花云



枝の木の心あり
柯同細枝と
條の木の心あり
樹の木の心あり

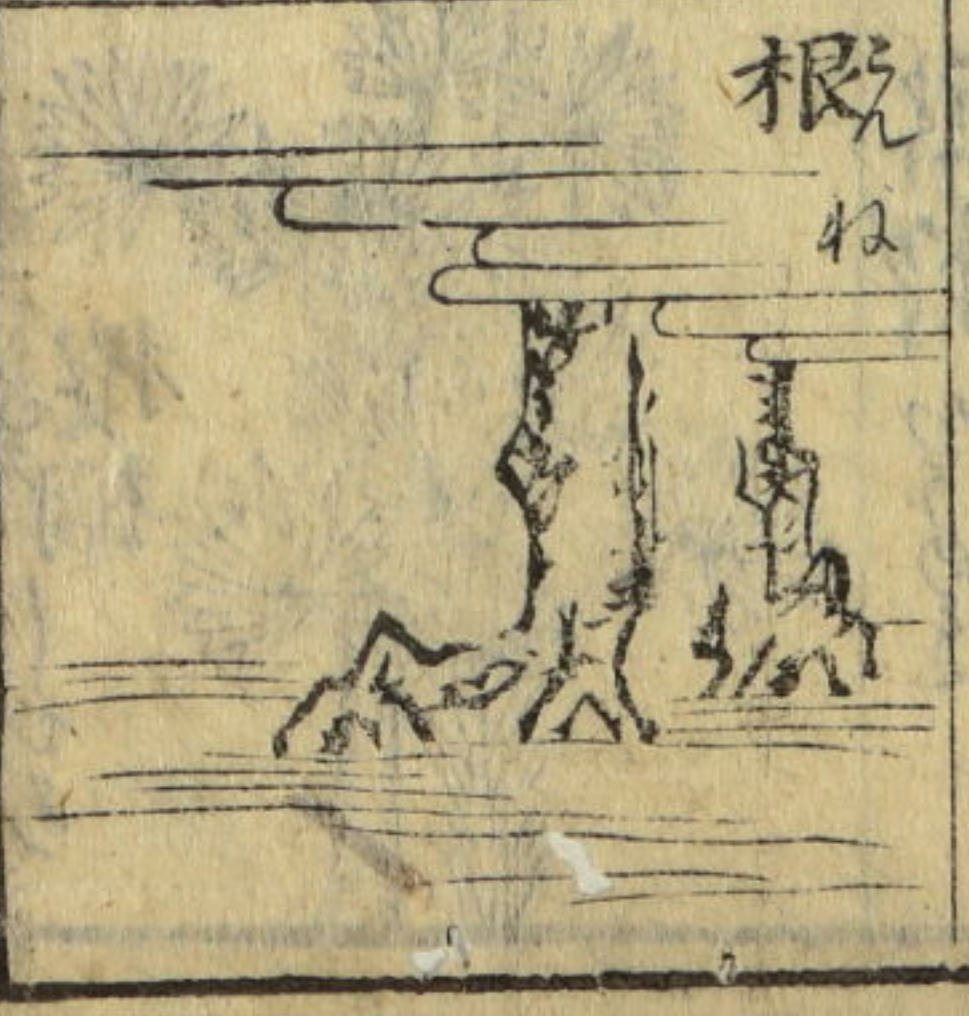
葉の木の心あり
葉の木の心あり
葉の木の心あり

根の木の心あり
根の木の心あり
根の木の心あり

芽の木の心あり
芽の木の心あり
芽の木の心あり

薬の木の心あり
薬の木の心あり
薬の木の心あり

山茶の木の心あり
山茶の木の心あり
山茶の木の心あり



梧桐の皮わき
のく皮ふくま
花の黄み
らいつー櫨同

紫荊

紫荊の葉小に
ある実を珠の
ある実を珠の

楊檀

楊檀の葉
木黄あり
葉とそいへ
葉とそいへ空疏同

石檀

石檀の葉
木黄あり
葉とそいへ
葉とそいへ空疏同

野漆

野漆の葉
木黄あり
葉とそいへ
葉とそいへ空疏同

仙栢

仙栢の葉
木黄あり
葉とそいへ
葉とそいへ空疏同



海棠の葉
花の紅み
一名海紅花

木樨の葉
花の黄み
一名黄木樨

紫薇の葉
花の紅み
一名百日紅

角楸の葉
花の紅み
一名角楸

圓栢の葉
花の紅み
一名圓栢

合歡の葉
花の紅み
一名合歡



○息莢の葉の槐
のく枝まらり
多々やそく葉か
ふたひくく息角
子とと生

黄楊 づげ

○黄楊の葉の槐
のくわそくわの
一花さうど交
かど四季ふが
めん

○女貞の葉の槐
のくわそくわの
一花さうど交
かど四季ふが
めん

○冬青の葉の槐
のくわそくわの
一花さうど交
かど四季ふが
めん

○衛矛の葉の槐
のくわそくわの
一花さうど交
かど四季ふが
めん

○狗骨の葉の槐
のくわそくわの
一花さうど交
かど四季ふが
めん



○木蘭の香蘭
のて花の蓮の
くくち白くち
ひさたあり

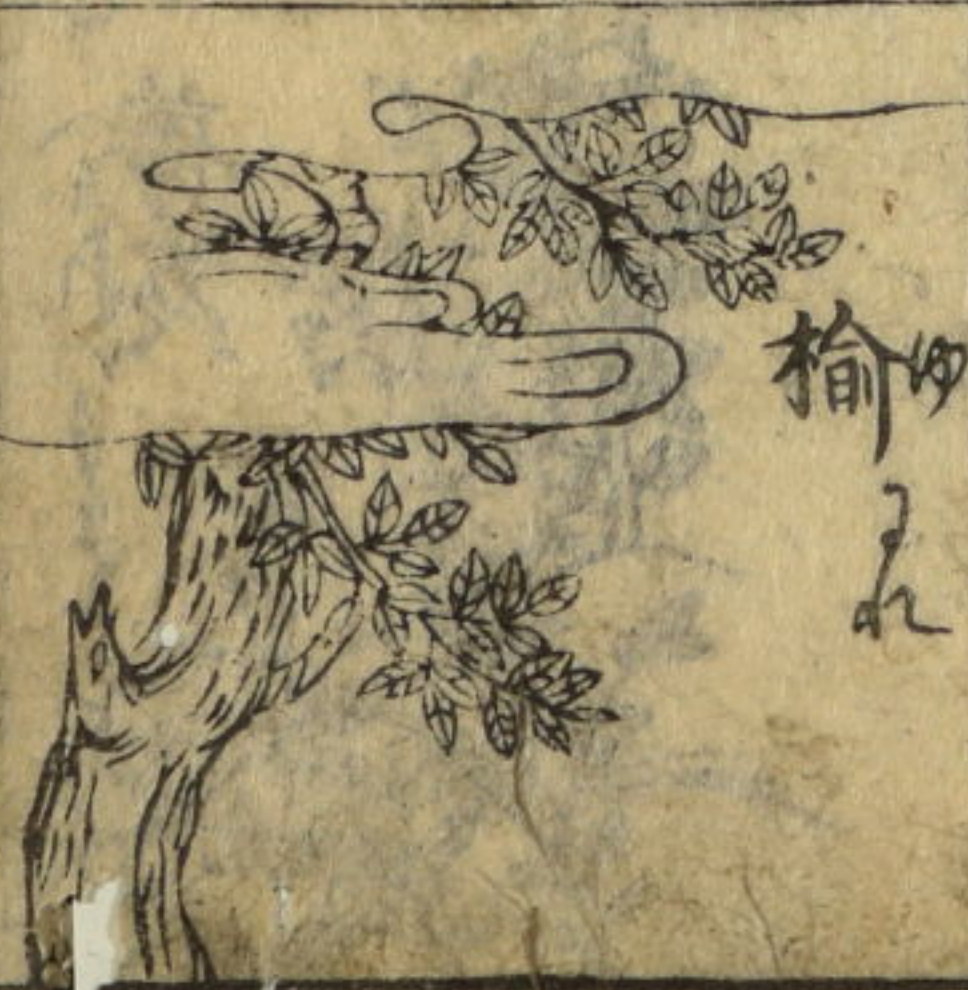
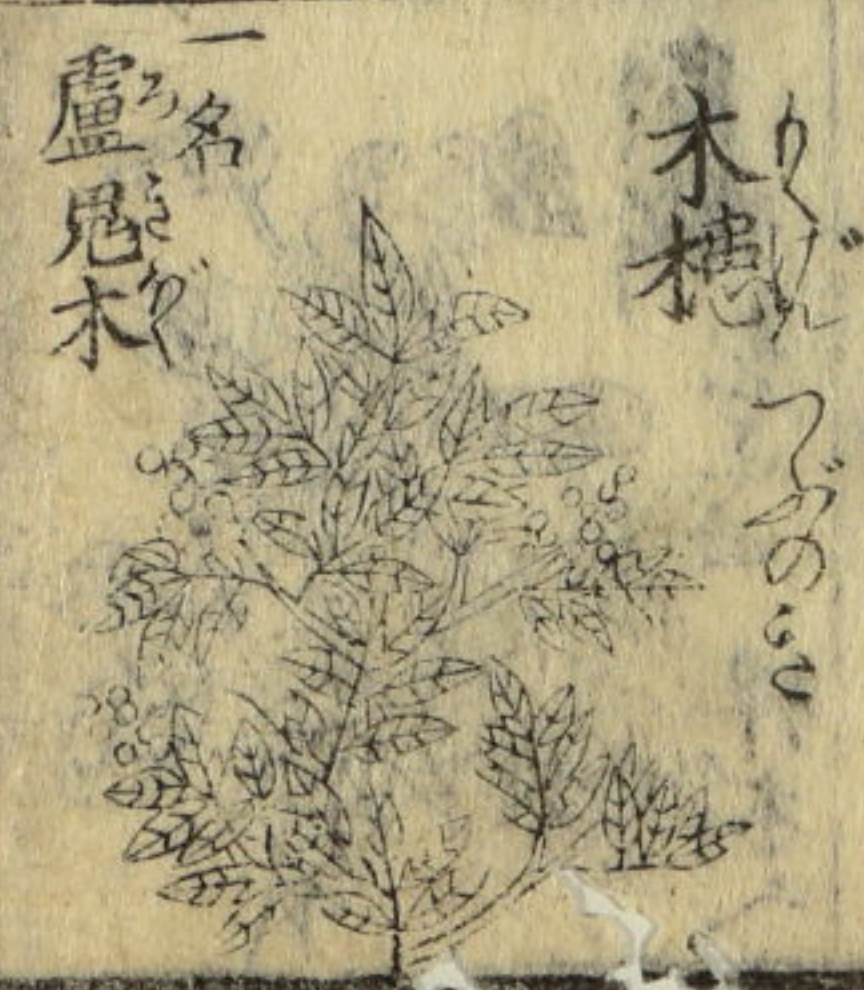
○接骨の葉の槐
のくわそくわの
一花さうど交
かど四季ふが
めん

○木樨の葉の槐
のくわそくわの
一花さうど交
かど四季ふが
めん

○石南の葉の槐
のくわそくわの
一花さうど交
かど四季ふが
めん

○楠木の葉の槐
のくわそくわの
一花さうど交
かど四季ふが
めん

○榆の葉の槐
のくわそくわの
一花さうど交
かど四季ふが
めん



南燭 なんしやく あまてん
○南燭の葉と花
てきかすす冬わ
くた子と生て一
名蘭天竹

扶竹 あしき
扶竹をけ

○扶竹の葉と花
は竹あり雙竹
とも天龍竹とも
いふ又相思竹

雲竹 うんしやく
雲竹をけ

○雲竹の斑竹
いふ葉のまじり
娥皇女英のまじ
りてていふまじり
にをえさるる

蘆竹 あししやく
蘆竹をけ

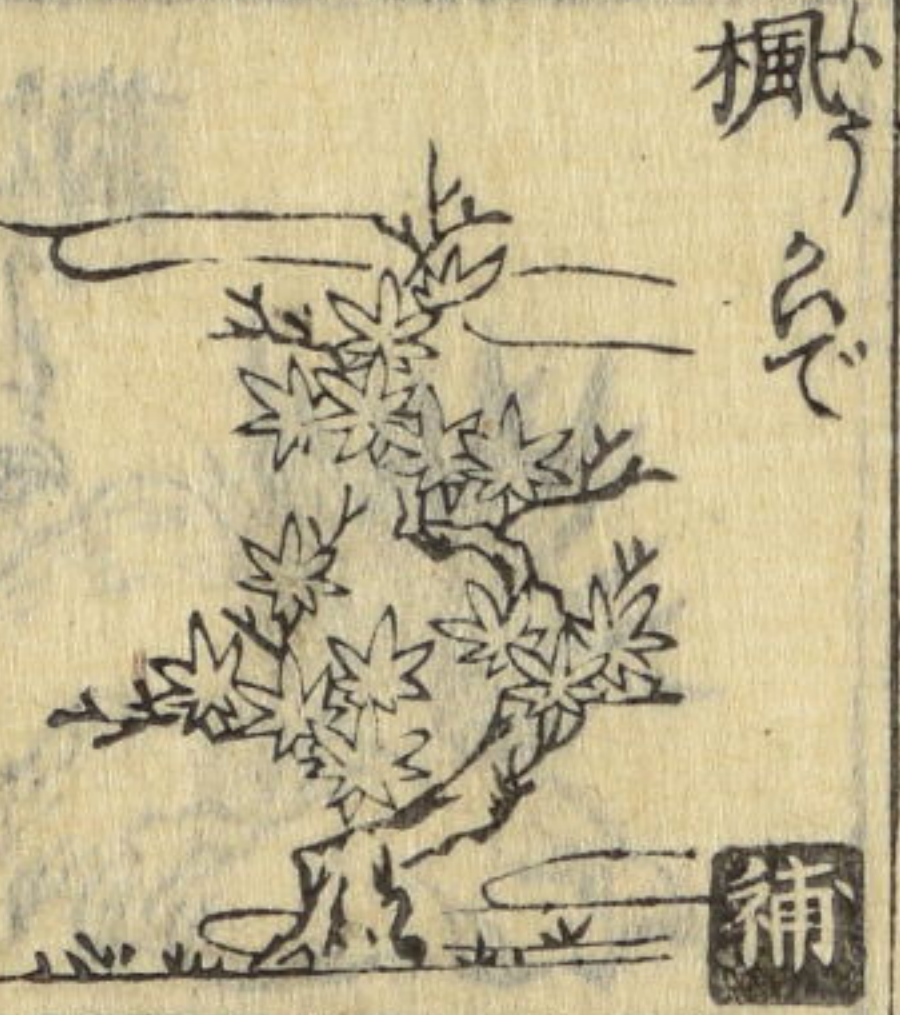
○蘆竹の葉と花
節にあり又秋草
竹ともいふ

楓 あき
楓をけ

○楓の葉と花
楓の葉と花あり又
鶏冠木ともいふ
りから乃あま系
あり

○無節竹 むせつしやく
無節竹をけ

○無節竹の葉と花
にりらゆらう
よりあり



薜荔 せきり あまてん
○薜荔の葉と花
と木饅頭ともいふ
又尾饅頭ともいふ

梭竹 そうしやく
梭竹をけ

○梭竹の葉と花
作葉の梭竹
杖又の杖杖のつ
るべし

鉄蕉 てつしやく
鉄蕉をけ

○鉄蕉の一名と
鳳尾蕉ともいふ
アラスカよりあり
と番蕉ともいふ

寄生 きせい
寄生をけ

○寄生の葉と花
あり枝のあまてん
あり本まきり
名りらり又寓
抄ともいふ ホヤ

榧 かい
榧をけ

○榧の葉と花
榧の葉と花あり
排文木披子
多いよ同

棕 そう
棕をけ

○棕の葉と花
標の葉と花あり
標同一名郎
来とつたふい
かて物とて
てはをといふ



頭書增補割象圖彙卷之廿

花草

け部はのこりくは草

○蘭の葉は
水波の如く
生じて葉は白
くつら



蘭

建蘭の今
蘭の葉は
花は白く又
脚蘭といふ



建蘭

○蕪の葉は
花は白く又
實は大さ指の
くさくさして痛



蕪

蜀葵の葉は
花は白く又
莢は同又
戎葵といふ



蜀葵

艾の葉は
血を治し
灸草水基並同



艾

○菘の葉は
花は白く又
わらうといふ



菘

○藍の葉は
花は白く又
ひくくといふ



藍

○萩の葉は
花は白く又
美いといふ



萩

○萩の葉は
花は白く又
美いといふ



萩

○蘇の皮を煎じて
して葉を煮て
その汁をわらわ
ひきだす

蘇

○藜の根を煮て
とろり水気をも
ひきだす

藜

○藜の根を煮て
実を一名と
狗尾草と名
和栗の下に生

藜

○藜の根を煮て
とろり水気をも
ひきだす

藜

○藜の根を煮て
皮の縋を履
ひきだす

藜

○藜の根を煮て
とろり水気をも
ひきだす



○藜の皮を煎じて
して葉を煮て
その汁をわらわ
ひきだす

藜

○藜の根を煮て
とろり水気をも
ひきだす

藜

○藜の根を煮て
実を一名と
狗尾草と名
和栗の下に生

藜

○藜の根を煮て
とろり水気をも
ひきだす

藜

○藜の根を煮て
皮の縋を履
ひきだす

藜

○藜の根を煮て
とろり水気をも
ひきだす



蘇同水
石のつらと石濡し
遊のつらと指衣



○飛春の一名と
仙女薔とよむ
二月の花と又
御仙花とよむ



○旋覆の系は
蘇よんて花の
類して蘇よん
と六月の花



○酸漿の五月に
ちのち白花と生
て実赤しとく
らて煙籠の
とて煙籠草



○桔梗の花は
さだに夏れと
ひくく又梗草と
まぐ



○菘蘇の水温の
下生を蘇の
のくそりて岐
わり一すたり



蘇も

蘇ハ水より蘇
大なりは蘇系
かたは水温と云
蘇尾蘇なり



○牡丹の一名と
とよむ花の王
とて花の富貴
もつり一名花玉
又木蘇散



○棟棠の花は
蘇よんて花の
わついの地棠花



○射干の花は
蘇よんて花
蘇あり三四月
ひくく烏蘇烏蘇
のくひ同



○鴨跖の野外に
生ぞ花あそと
とらん碧蹠花宜
竹花並同



○薔薇の花は紅
白あり花をけ
して盡くす
て一名月と紅
との長春と云



莖はくさくさあり幹
同莖の衣と苞
とらふとくあり
草根と葉と云
くこれ株



莖は花乃と云
葉はあひま
同又花心と云



莖はくさくさあり
花帯花拵あり
ひよ同



鳳仙花の莖は紅
白のふわり花の
淡白紅紫葉と
金鳳花同



○五葉子の葉と
五味子と云と
いれりて汁と
ははるん髪に付



蔓はゆるん木の
本と葉とら葉
の柄と蔓と云



○卷丹の花大
色黄あり葉も
又大あり一名番
山丹



○雞冠の葉は冠
形あり莖はくさ
葉色あり六七月
に花は紅紫あり



○百合の日のけ
花は一名夜合
花と云



○金銭花の花は
黄色あり葉は
狭まにらり一名
子午花



○山丹の花は
いろ葉も
あり渥丹同



鴨尾

鴨尾の葉の形
秋にあり花は
白く花の葉は
羅傘



文菊

文菊一名の
陽花
又一名は
陽花



石竹

石竹の北唐
の葉はより花大
さげり紅花



秋葵

秋葵の一名は
黄蜀葵といふ
葉はより花大
さげり紅花



剪羅

剪羅の葉は
丸く葉をとり
花はより花大
さげり紅花



様錦

様錦の六月
葉はより花大
さげり紅花



龍膽の七月に

花はより花大
さげり紅花



酢漿

酢漿一名の
酸草といふ
葉はより花大
さげり紅花



堇菜

堇菜一名
紫頭草といふ
葉はより花大
さげり紅花



金盞花

金盞花の一名は
四時子あり花は
白く花の葉は
さげり紅花



水仙花

水仙花の一名は
盆のより花は
白く花の葉は
さげり紅花



牽牛

牽牛の葉は
より花大
さげり紅花



狗耳草



茵陳

○茵陳 葉の
九月にわが花
ひく黄色い



春菊

○春菊 花の
白くて大なり
蒿菜花とよ



○玉簪 葉大
一七掌なり



○鼠麴 花の
多し花のく
取れ毛のく



萍蓬

○萍蓬 水
に生く葉
けり水栗骨
蓬同



龍芮

○龍芮 四月
にわが葉あり
花のく葉のく
大なるの



金燈

○金燈 花の
蒜のく一各
鬼燈繁又蔓珠沙



石蒜

○石蒜 花の色
あつ葉のく
枝箭のく



鼓子

○鼓子 花の
く軍中に
て鼓子のく
又鼓子のく



車前

○車前 花の
く尾花のく
八月に実とく
茨牛舌同



山葱

○山葱 二名
葱のく取葱
くく信とく
くく信とく



防風

○防風 五月
と生く五月に
花のく六月に
とくく実とく



積雪 大竹て銭のこ
とく莖やそくふ
てはつあり溪の
わいん生む

天茄 一名珍

○天茄 一名珍
葉のく葉茄子
に比小五月の末
小白花とひく

慎火 一名

○慎火 一名
天とひ又の
戒火ともひく
多と佛申草と

○南星 八風疾と
治し効と多む
ことらりうに
うし又虎掌鬼
蕩蕩とひく

牛膝 一名

○牛膝 八風疾と
治し効と多む
ことらりうに
うし又虎掌鬼
蕩蕩とひく

羊蹄 一名

○羊蹄 一名
虎杖と又牛
舌菜ともひく
と金蓋草ともひく



連銭草 胡薄荷 並同



天茄



慎火



南星



牛膝



羊蹄

○麦門冬 四月
うとある花は
く根よひげあり
実のたどりけりて
珠のまきまき

苗香 一名

○苗香 八疝気と
のぞく腰を
つるんとち胃と
あそひ和名これ
のこと

杜蘅 一名

○杜蘅 八疝気と
跡にありりひ
足乃花と生を
跡香と草と

○水菺 八草鳥
頭の苗ありり
いしとす口は
まいとつる大毒
あり

紫草 一名

○紫草 八九疝と
つる水と利
これと消せり
さうはう一名
此草

虎杖 一名

○虎杖 八疝気と
通利 瘰癧と
やうの湯とやう小
つんと利し
らりるるを



麦門冬



苗香



杜蘅



水菺



紫草



虎杖

番椒
○番椒ハセンリ
と治一虫と云
も入まどく

蕪荑

○蕪荑ハ葉ハ
つゞいて花黄
白汁と云
付ハ一ハハの毒
虫よと云

蒼耳

○蒼耳ハ葉ハ
ハハのハハ風湿
つゞいて氣さ
目と云
あハハと云

木賊

○木賊ハ目ハ
と云りて積塊
と云りて和名と云

紅花

○紅花ハ血と云
がり血血の
と云りて大ハハ
と云りて

蓖麻

○蓖麻ハ葉ハ
の葉ハ中ハ
して五ハハハ秋
花と生ハハと
ハハハハハハ



蛇牀
○蛇牀ハ葉ハ
中と云りて
痰と云りて
旭牀蛇粟並同

蒼木

○蒼木ハ葉ハ
中と云りて
山薊と云りて

苦参

○苦参ハ葉ハ
中と云りて
水槐地槐同

凡蘭

○凡蘭ハ一名
桂蘭とも吊紫
と云りて

玉栢

○玉栢ハ一名
万年松とも
多ク石栢
ハ又玉遂とも云

澤漆

○澤漆ハ葉ハ
圓ハハハ
あハハハハハ



○蒴藋の枝よ
五葉赤白く子
らく緑豆のじ
ついに赤く
ついで赤く



○絡石の枝よ
あつたに葉の
橋の葉より
花より子より
莖より葉より



○防己の根
防己の根
防己の根
防己の根



○山薑
山薑の根
山薑の根
山薑の根



○烏頭
烏頭の根
烏頭の根
烏頭の根



○龍葵
龍葵の根
龍葵の根
龍葵の根



○石荷
石荷の根
石荷の根
石荷の根



○螺肭
螺肭の根
螺肭の根
螺肭の根



○卷栢
卷栢の根
卷栢の根
卷栢の根



○馬勃
馬勃の根
馬勃の根
馬勃の根



○石韋
石韋の根
石韋の根
石韋の根



○石帆
石帆の根
石帆の根
石帆の根



類
類

梯草
○梯草ハ葉ハ
蕪青ニシテ
花白シクニ
生ズ

華蔓
○華蔓ハ花
赤クシテ
蔓ノカガ
ハシ

萩
○萩ハ郊野に
生ズ秋花ニ
白シクニ
咲ク

梯草



華蔓



萩



石斛
○石斛ハ石上に
生ズ胃氣を
平シクシ
邪熱と云フ一名
石遂

秋海棠
○秋海棠ハ葉ハ
赤クシテ
花ハ白クニ
咲ク

秋海棠
○秋海棠ハ葉ハ
赤クシテ
花ハ白クニ
咲ク

石斛



他偷



秋海棠



頭書增補訓蒙圖彙卷之九一

雜類

諸祖師
散聖の類とあると



二王金剛

○右と右弼金剛
剛と云フ人の生
善ト云フ人ハ
一那羅延金剛
剛ト云フ

右弼金剛



左輔金剛

○左と左輔金剛
剛と云フ人の生
迹金剛ト云フ
佛法守護神
置と



持國



增長



持國天王
○乾達婆毗舍
闍と云フ足下
にヤシト云フ東
がと守護と云フ
四天王の第一なり
增長天王
○鳩槃荼薛荔
多と足下を
守護一ノ
四天王の第二

誕生釈迦

○卯月八日寅の
越誕生したまふ
七歩ののちはま
と上りて天竺
下唯我獨尊との
たすべし



誕生彌陀

○殿横川のミ
杯子弥陀の正容
と現したまふと
恵心僧都拜
多ひて寫し多
ふしとく



達磨

○梁の武帝に
まゝ江とけり
魏の少林寺に
入たふ世に芦
葉達磨又一
草達磨ともい



聖徳太子

○太子十六歳乃
九定たり人王祀
二代用明天皇の
皇子四十九歳二
月廿日入滅り
日本佛法の初
傳教大師



傳教

○最澄も云日
本天台の用祖
延暦元年入唐
五十六歳六月四
日入滅傳教大
師ハ也なり号シ



龍猛

○南天竺に出生
釈迦より八百年
後真言宗乃
第一祖大日經
金剛頂經蘇悉
地經と弘たす人



出山釈迦

○佛三十歳の正時
十月八日明皇乃
出るとに廓然大
悟とあり正覺と
成れたる也



出山彌陀

○浄名居士
に佛みと持
が丈の内に入
師みの坐とあり
三千の衆と入
法門とあり



傳大士

○善恵大士又八東
陽大士ともい二童
子其子なりと
指さるる普建
又梁の人なり



天台

○陳隋二代の國
師唐土天台宗の
開祖十月廿四日
六十四歳入滅
智者大師也



元三

○諱良源康保
三年天台座主
あり又大僧正あり
花山院寛和三平
三日寂と慈恵大
師ハ也なり号シ



弘法

○諱空海延暦
廿三年入唐あり
日本真言宗の用
祖六十二歳三月
廿日入滅弘法大
師ハ也なり号シ



六祖大師
 ○唐より六祖諱ハ
 惠能ハ下より
 禪宗五家より
 大鑑禪師ハ
 二号あり



洞山大師
 ○西唐の印可
 諱ハ良价洞家
 の祖師洞山ハ
 山の名悟本禪
 師ハ号あり



道元禪師
 ○日本曹洞宗
 開祖越前永寧
 寺の洞山真應
 二年入宋建長
 五年八月十八日
 逝



行基菩薩
 ○泉州の人百濟
 王の能く日本
 大僧正の初り聖
 武天皇の仁時ハ
 八十二歳二月廿寂



善導大師
 ○唐土長安の龍
 あり出現ハ
 三十余年ハ
 眠セシ唐永隆
 二年ハ十日化



源空上人
 ○諱ハ源空作州
 の人浄土宗の開
 祖善導ヲ夢
 中の相承あり順
 徳院の建暦二年
 正月廿五日入滅



臨濟大師
 ○黃蘗の印可
 諱ハ義玄濟家
 宗の祖師臨濟ハ
 院の名惠照禪師
 ハ号あり



栄西禪師
 ○日本臨濟宗
 開祖花洛東山
 建仁寺の開山
 文治三年入宋建
 保二六月十五日寂



鑑真和尚
 ○唐土廣陵の人
 孝謙天皇の仁時
 來朝日本律宗
 と初ハ号あり
 南都招提寺の
 開山七十七歳寂



役行者
 ○役小角ハ和
 州の人葛木山に
 入テ孔雀明王の法
 と秘ハ母と并
 入テ入唐ト人



親鸞上人
 ○諱ハ善信ト云
 花洛の人専修念
 佛といハり一向宗
 の開祖弘長二至
 十月廿八日九十歳
 寂



日蓮上人
 ○房州の人法華
 經ト云ク諸人
 と教化ハ法花宗
 の開祖弘安五年
 十月十三日六十歳
 少く武州に寂ト



竹川大國卷七

孔子
○のり周の代
の人堯舜の及
ていりめ五常と
言はん文宣王
云儒宗の大聖人
なり



寒山子
○唐の太宗の
天台山に隠れ
拾得と法なれ
て後に去下と
なりと文珠の化
別なりと云



拾得子
○豊干禪師の
ころに拾ひ得
たる故拾得と云
常に寒山と仲
りその終るとい
ふ頃の應えなり



費長房
○後漢の代の人
仙術とえて病を
兼て飛行せり
又下令威とい
へり



上利劍
○仙人の劍と
兼て波の
上と飛行せり
術はなかり



初平
○仙人の金華
山に住し仙人
白石に向て叱
りて白石數千
可の羊となり
乃るなり



老子
○周の代の人
と記白髪なり道
經五千言といふ
一無為自然の
道あり道あり
大徳あり



許由
○堯の君位とゆ
つんとりたんと
すてその耳汚れ
たりと穎川の滝
に沈り耳とわり
ひ賢人なり



琴高
○神仙の術と
て鯉に乗て水
上と飛行し書
とらる仙人
なり



蝦蟇仙人
○仙人のついで
蝦蟇と成り
其名とわさ
りといふ



鐵柵仙人
○仙人の虚空
に居りて己が
形とあきいふ
仙人とわさり
なり



鐵柵
○仙人の虚空
に居りて己が
形とあきいふ
仙人とわさり
なり



如今訓蒙圖彙者以假名字加頭書
艾繁補闕便于童蒙且亦雜顛一
篇新添者也



千時元祿八^{乙亥}孟春穀旦
書肆 開版

隱訪郡平野村

今井太郎

今井氏

